

研究発表1 -

化粧療法の有効性

編田法子¹⁾ 原崎美也子²⁾ 長谷川真弓³⁾ 太田健介⁴⁾

医療法人耕仁会札幌太田病院 作業療法課

1) 作業療法士 2) 化粧療法講師 3) 看護師 4) 医師

1. はじめに

今回、高齢の統合失調患者に対し化粧療法を実施し、良好な結果を得た。本日は「思春期の心」をテーマにした講演会ではあるが、思春期症にも有効と考えたので、小弓道・ミニゲーム療法と特性を比較した考察を報告する。

2. 症例紹介

A氏(80代後半、女性)。躁状態、現実見当識低下などから日常生活困難となり当院入院。中肉中背、円背姿勢でうつむいていることが多く、伏目がちである。ふらつきがあるため、車椅子を使用することが多いが、短時間の歩行可。攻撃性が高く、対人トラブルに注意が必要。現在入院1年が経過する。

3. 作業療法場面

1) 小弓道療法・ミニゲーム療法などの作業療法の経過

この療法は、20名以上の大集団で実施される。A氏は、ゲームの点数へのこだわりが強く、攻撃的になり易く、場の雰囲気壊すことがあった。他患との交流は見られず孤立していた。円背姿勢が多い。現実検討が困難な状態で、職員や他患に対し、物取られ妄想から暴言や暴力などを認めた。

2) 化粧療法の経過

この療法は、10名前後の小集団で実施される。他患を褒めたり、穏やかに日常会話や思い出話をする対人交流が見られた。鏡を見て円背姿勢を正す様子も見られた。他患の感想用紙を見て、自分の感想用紙の日付を修正するなど、自らの間違いを素直に認め、現実検討力の維持、向上の契機と思われた。

4. 考察

化粧療法は、快適な覚醒感を増加させるため、リラックスさせる効果が高いとされている。A氏は化粧療法により円背姿勢が改善され、自らの間違いについて素直に認められるようになった。化粧のリラックス効果により、筋緊張が低下し、頸部を進展させて円背姿勢の改善に役立った可能性がある。攻撃性が低下したのは、快適な覚醒感から、外部刺激に対し、受容、共感する精神的余裕ができたことが寄与した可能性がある。化粧療法は小集団のため、他患との交流を図りやすい特性を持ち、それが対人交流の刺激となる。

A氏の場合、小弓道療法・ミニゲーム療法などのゲーム的要素が強い作業療法では、他者との競争意識から攻撃的態度が見られた。一方、化粧療法は他患からの賛辞、きれいになったことによる充足感が得られるため、満足感から気分が安定し、攻撃性が低下し、こだわりが減少した。以上より、円滑な対人交流の促進に有効と考えられた。

参考文献：日比野英子「化粧の心理学入門」、月刊総合ケア、vol.10 No.7 2000-7, pp.70-73